

平成25年度 第1回はけの森美術館運営協議会

平成25年5月21日（火）

【鉄矢会長】 では、平成25年度第1回小金井市はけの森美術館運営協議会を始めた  
と思います。

配付資料を確認します。次第がありまして、事業報告があつて、それぞれ1枚ものの資  
料が2枚、それから府中市美術館の「近代洋画にみる夢」というもののA4のチラシを挟  
み込んだものと、年間スケジュールとうれしい招待券。お手元に足りないという方いま  
すか。ないようなので、次第にのっとして運営協議会を進めさせていただきたいと思  
います。

次第1、展覧会の観覧は今回終わったということで、2番目から入りたいと思いま  
す。多目的講義室等の改修終了について（報告と現状視察）ということをお願いします。

【事務局（吉川）】 大変ご心配いただきましたけれども、この部屋が改修のメインにな  
った部屋で、今、とりあえず多目的講義室と呼んでおります。3月末に改修を終了しま  
して、これからこの部屋を使って様々なワークショップ・講座等を行っていきたく思  
っております。

後でお帰りのときなどにご案内しますが、隣にワークショップの準備室と、あとワー  
クショップだけに入れるように、もともとあったお宅の玄関を使って受付等も作り、ト  
イレも2つ、ここだけ独立で使えるようにできております。それと、あと委員の皆様には  
大変心配していただきました備品類も入りました。プリンター、プロジェクター、カメ  
ラ、ビデオといった機材も入りました。パソコンも入りました。あと今ご使用いただ  
いている机、イス、ホワイトボードとかも入りました。大切に有意義に使っていきたく  
思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

【荒木学芸員】 あと、こちらの新しい部屋に、あれっと言うようなちょっと古いタイ  
プの棚をごらんいただけだと思います、これは改修前の各部屋やキッチンにあった家具  
を再利用しています。隣の準備室にもこうした棚を再利用して置いてあります。棚ま  
で買う備品費がつかせませんでしたので、これらもフル活用しています。でも実際  
にこうやって置いてみたら結構しっくり空間になじんで、以前の協議会で鉄矢会  
長がおっしゃっていた、中村富子さんがお住まいだったお家の家庭の雰囲気  
を残すには、上手くいったかなというふうに感じております。

【鉄矢会長】 ぜひこのガラスが割れたときのエピソードを聞いておきたいです。富子さんに聞くと、住んでいたときに、これ実はこのときで、中村研一が割ったのよなんて、いろいろエピソードがあったほうがおもしろいですけどね。

【事務局（吉川）】 最初、これらの棚も全部取り壊しになるということでした。もったいないから、「劇的ビフォーアフター」みたいに再利用できないかと聞いたら、業者さんから、それは逆にお金がかかりますよって言われたんですけど。

【鉄矢会長】 劇的付けるからですよ。劇的ビフォーアフターと言っちゃったから。

【事務局（吉川）】 施工してくれた業者さんが「この棚使うよ」って、逆に業者さんから言ってくださったので、よかったです。

【鉄矢会長】 では、議事が終わり次第、歩いて見学をするということで、議事のほうを進めたいと思います。

事務局紹介。人事異動対象者等がありましたので、よろしくお願いします。

【平岡委員】 4月に市役所の人事異動がありまして、以前の鈴木から館長は平岡にかわりました。以前は広報秘書課長を5年ほどやっておりました。今回、全く新分野ということで、かなり迷っていることがいっぱいあるんですけども、皆様のお力添えもいただきながら頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

あともう1人、学芸員が中村にかわりましたので、自己紹介をお願いします。

【中村学芸員】 5月から勤務させていただいております中村めぐみと申します。前職は一般企業で普通のOLをしておりまして、その前に大学院で教育普及活動について研究をしておりました。東京都庭園美術館でインターンをしていた経験がありまして、そのときも教育普及、ワークショップなどに従事しておりました。前任の方がそういった役割を担っておられたと思うんですが、それプラス中村研一のこともしっかり勉強して、活動していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】 よろしくをお願いします。

【平岡委員】 以上であります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

では、4番目の事業報告等に入りたいと思います。よろしくお願いします。

【荒木学芸員】 前回の運営協議会が今年の1月でしたので、それ以降の年度末から、現在までの事業についてまずご報告いたします。

はじめに、展覧会です。先ほど皆様にごらんいただきました、所蔵作品展「中村研一 描

線の妙味」。これは前年度末3月30日から次の日曜日まで開催しております。既に関連イベントは全て終了しましたので、こちらに参加人数を載せております。ギャラリートークは2回開催して、1回目は11名、2回目は1名と、かなり幅がありました。そして、ワークショップ、こちらもせっかくですのでプロジェクトをご覧ください。(スライド上映)

これが5月6日に開催しました「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」の写真です。このタイトルのコラージュのワークショップというのは既に何度も行ってまして、恒例になっております。今回も定員15名のところに、多少キャンセルが出たんですけども、付き添いの方を含めて合計20名の参加を受け付けて、実際にいらしたのが16名でした。既に会期の終わったチラシやポスターを使ったコラージュのワークショップは何年間か続けているところです。

**【山村委員】** テーマは決めたの？ どういうふうにつくるかは。

**【荒木学芸員】** 今回はブックカバーをつくろうというふうにテーマを決めました。よく教科書とか入れたりする透明のビニールのブックカバー、その中に入れる紙をこちらであらかじめちょうどサイズに切っておいて、それに参加者の方がいろいろ好きなように紙を張っていく。あるいはこちらでフレームを用意しておいて、内枠で切ればカバーの中紙のちょうどサイズですよというのをつくっておいて、ポスターの上ののせていって、自分で好きなところを切り抜くということも楽しんでもらいました。

**【薩摩顧問】** これはずっとこのタイトルで続いているワークショップで、なかなかいいアイデアなんです。コラージュというのは絵があんまりうまくなくても、要するにデザインみたいなことができなくても、切り取って張ればいいから比較的簡単にできるのと、それから古い展覧会のチラシを使っていますので、経費がかからない。

**【荒木学芸員】** 最近になってクリエイティブリユースなんていう言い方もありますけれども、これができ上がった作品たちです(スライド上映)。でき上がった後に1回このテーブルに出してもらって、ほかの方がつくったのも見てみましょうということで、一通りぐるっと回ってもらいました。わあ、全然違う、おもしろいという反応があったりしまして、もっとつくりたい方のために、ビニールカバーは1人1枚ということでしたけれども、その中の紙ですとか、古いチラシ類をもっとやりたい人は持って帰ってくださいというふうにしています。昨年度は、同様のワークショップで、メッセージカードをつくるというのをやりました。今回はブックカバーということでしたが、何かをつくるというのも、た幾種類かストックをつくって、何回かに1回ちょっと繰り返していったりということが回

してできるんじゃないかなと考えております。これは続けていきたいワークショップです。

ワークショップについては以上です。

続きまして、5月12日の日曜日に無料観覧日を実施しました。5月14日の中村研一の誕生日にちなんで、そこに一番近い日曜日にここしばらくは設定しています。今年も多くの方がいらっしやいまして、来館者は179名ありました。特に時間帯に偏りなく、常に途切れずにお客様がやってくるという感じで、特に混乱もなくできました。

この展覧会全体については、まだ会期は終了していませんので、人数などは完全な集計はありませんけれども、現場の実感としましては、ゴールデンウィーク少し前から大変気候がよくて、お散歩にいらっしやる方が大変多く、会期中の土日、祝日の中で70人、あるいは平日でも50人を超えるお客様の来られる日もありました。来館者数などの最終的な報告は、次回の運営協議会でまとめて報告したいと思います。

同じく報告事項ということで、所蔵作品に関連して2件ございまして、その1つは作品の貸し出しがありました。中村研一のふるさとの宗像市と小金井市が昨年協定を結びました。それを記念して宗像市が中村研一の作品をまとめてお借りしたいということで、こちらから合計23点の油彩画と陶磁器の作品を貸し出しました。

**【鉄矢会長】** 小金井市って宗像市のほかにどんな交流があるんですか。

**【平岡委員】** 私のほうから簡単に説明させていただきますと、もともとは中村研一と琢二の関係で、宗像市さんのほうからパートナーシップ協定のようなものを結べないかというお話が数年前から出ていまして、昨今の震災の関係もありまして、災害時の応援協定と、あと友好都市ということではなく、パートナーシップ協定という2本立てで、昨年秋に市長が直接福岡県に行きまして、締結したという経過があります。ですので、その後、それを使って実現した初めての展覧会という形になります。

**【鉄矢会長】** これは宗像市と小金井市を行き来できるといいだろうなと思って、小学生とか。

**【平岡委員】** そうですね。遠方ですが。

**【鉄矢会長】** だから、遠いところに行かせるために、日本が東京じゃないと感ずるのがいいだろうなと思って。

**【平岡委員】** そうですね。そこまでは進んではないんですけども、中村研一さんが生まれたところであって、あちらはあちらで研一・琢二の生家美術館、生まれて住んでいらっしやったところをそのまま使って、こじんまりとした美術館を運営されている方が

いらっしゃいますので、そういうところから少しずつお話が進んでいくといいなというふうには思います。

【鉄矢会長】 ワークショップに参加すると、そういうチケットがちよっとずつたまって、じゃ、宗像市に行ってみようかっていう気にさせる。せっかくのものが、市のお金じゃなくて、自分たちのお金でやるんだけど、どこへ行こうかなって迷ったときに、じゃ、宗像市へ行ってみようかということと、行ってみようかということをしたときに、向こうの人が、ああ、そうですかと言って、ここのワークショップの話とか、中村研一の話でちょっとだけでも話が盛り上がるとか、宗像市に行ったらこの飲み屋に行きなさいよぐらいのことをお父さんに言うておかないとって言うと、多分そうすると本当に友好都市というのは実になるみたいですね。

【村澤委員】 済みません。不勉強で申しわけないんですけども、中村琢二さんですか、その人はどういう方なんですか。

【平岡委員】 研一の弟さんなんですね。やはり同じようにやっていたらいい方。

【村澤委員】 その美術館が宗像市にあるんですか。

【平岡委員】 そうですね。

【荒木学芸員】 宗像市中村家のご親族が運営されている美術館です。

【平岡委員】 ご兄弟ともそこで生まれ育ったお家を、そのまま使ってやっていたらいいというふうに伺っています。

【村澤委員】 琢二さんという方も画家。

【平岡委員】 そうですね。琢二さんも画家でいらしかったということです。

【鉄矢会長】 知らないですよ。

【村澤委員】 知らないです。

【鉄矢会長】 だから、知っていたら、福岡へ行ったときに、じゃ、ちょっとそっちのほうにという気になるきっかけを。

【平岡委員】 そうですね。

【荒木学芸員】 (スライド上映) このようにチラシの裏にも当館の所蔵作品が3点載っています。実際には福岡県立美術館などを含めて、福岡県の美術館や個人が所蔵している中村研一・琢二兄弟の作品も展示して、当館の所蔵作品とは半々ぐらいの感じでした。展示作業には、私が作品チェックのために宗像市に行って、立ち会ってきました。こうした二十何点ものまとめた作品貸し出しというのは、当館ではそうめったにないことなんです。

けれども、また他の美術館などからの貸し出しの依頼があった場合には、今後もできる限り協力する方針でいきたいと思っております。

【鉄矢会長】 これは中村研一のキャラクターなんですか、琢二のキャラクターなんですか。

【荒木学芸員】 見たところ、研一、琢二と書いてあるんです。

【鉄矢会長】 KとTってなっていますね。無償で使えるんですか。

【荒木学芸員】 以前もこの感じのイラストを使っていた気がします。

【平岡委員】 そうですね。あちらはご兄弟セットの名前での美術館ですので、生家美術館のほうで考えられたのかもしれないですね。

【山村委員】 似ていますね。

【平岡委員】 そうでしょうね。

【荒木学芸員】 琢二がひょろっとしているのは似ています。

次に移りまして、1点、年度末に作品寄贈の受け入れをしました。今もスライド画面に出ています中村研一作の九谷の「バラ図皿」、これは仮の名称です。九谷のお皿です。これは昨年秋に石川県立美術館から作品をお借りして展覧会を開催しました際に、中村研一の九谷作品について現地でも調査を行ったんですが、その中で存在を教えてくださいました。それが展覧会を始めてから、当館に寄贈したいということでお申し出をいただきました。これを3月22日に開催しました収集評価委員会で審議いただいて、当館で受け入れるべきだろうという判断が生まれて、当館の作品として登録いたしました。

当館所蔵の九谷の作品は小さいものが中心で、大きいものはほとんどが石川県立美術館が所蔵しています。それを昨年秋の展覧会で全てお借りして展示しました。中村研一のこの九谷の作品は、かなり大きなお皿です。こちらは青一色だけではありません。こういうふうな大きさがあって、研一がよくかいていた花の絵のものということで寄贈いただいて、大変うれしい作品でした。できましたら、今年度内にでも新規所蔵作品として展示したいと考えております。

以上が昨年度末及び現在までの報告事項になります。

引き続き、今後の事業予定、わりと近いものについてお知らせしますと、まず今行っている展覧会が今度の日曜日に終了しまして、その後、2カ月弱、7月22日までが休館期間となります。その間にいろいろなメンテナンスであったり施設、あるいは作品の調査などを行います。

その後、ちょうど夏休みの時期に合わせまして所蔵作品展を開催します。まだデザイン等の作業が進行中ですので、概略だけなんですけど、まず事業につきましては、今年の夏休みの所蔵作品展と同様に、小中学生の観覧無料を実施いたします。これは昨年行いましたところ、過去の夏の時期の所蔵作品展と比較して約1.5倍の小中学生の来館があったことと、実際に小中学生たちが宿題やりにきたんだということがあったりですとか、小金井市ばかりじゃなく、近隣の市の中学生も多く来ているということがあり、これは一定の効果があったということで、今年度も実施する予定です。

これも昨年度と同じく鑑賞ワークシートを制作して、来館した小中学生に配布します。

これも当館ではわりと恒例になりました美術館で模写。これはわりとほかの館でも最近始めるところがちらほら見られるようになったんですが、展示室の中で作品を模写といいますか、作品をスケッチするという内容で、これは8月の毎週火曜日に行います。画材やイーゼル、あるいは画板などを用意して、希望者に貸し出すというものです。

その他関連イベントとしては、ワークショップを2回開催する予定です。

そのうちの一つは、先ほどご紹介したようなコラージュのワークショップ。今度は所蔵作品展のテーマが「旅」なので、「“けんぼしゃん”とあそぼう コラージュでつくる夢の旅」というのを仮タイトルでつけています。行きたい場所とか食べたいもの、見たいものを紙の上にコラージュで切ったり、貼ったり、あるいは描いたりして、自由に表現しましょうというプログラムを考えております。

もう1本のワークショップは、新しくできたこの多目的講義室を使いまして、この部屋の天井、ここのレールがスポット照明をつけられるようになっていまして、これは当初、予算が足りないから、希望を出してもつかないかもと言われていたんですけども、最終的にはついたんで、以前から構想のあった照明に関するワークショップを行う予定です。ここにスポットライトをつけてデモンストレーションをしたり、あるいは参加者が実際に照明を動かして、見え方がどう変わるんだろうというのをやってみるワークショップを計画しています。

所蔵作品展が夏休み期間で終わりました、1カ月弱の休館期間を挟みまして、この前もお話ししています財団法人地域創造の助成による市町村立美術館活性化事業の共同巡回展の佐藤慶次郎展を秋に開催します。今、スライド画面に出ていますチラシはまだ完全なものではないんですけども、大体こういうデザインになりますというものです。7月から8月が長崎県佐世保市、8月末から9月末までが愛知県安城市、そして10月、11月は

この小金井市で開催します。このチラシが3館共通版のもので、ここは小金井が入っていますけれども、こういった2種類のポスター・チラシが今計画されています。現在、制作進行中で、今ちょうど詰めに入っているところです。

以前から佐藤慶次郎展を開催するということでお話していきまして、せっかくこの機材が入ったということもありますので、先ほども協議会が始まる前に流していました佐藤慶次郎の作品の映像をちょっと流したいと思います(スライド上映)。BGMは特に佐藤慶次郎とは関係なくついているものです。こういった動く作品ですね。モーターとかコイルを使って電流を流して、そこで発生する微細な振動と磁力でこうしたおもしろい動きをします。最近のコンピューター制御によるものと違って、非常に不規則なきまぐれな動きをするオブジェです。

今映っている映像は、1980年にこの作品のほとんどを所蔵している岐阜県美術館で開催された展覧会で撮ったものです。昨年末から今年初頭にかけて、多摩市の多摩美術大学美術館で佐藤慶次郎の総合的な回顧展が行われました。内容は、作曲家としての側面とかいろいろな活動や人物そのものに焦点を当てた展覧会でした。その会場で、作品の動画撮影をし、それをDVD化して今回の展覧会のカタログの付録につける予定です。映像はほとんど仕上がっているんですけども、これもでき上がりましたら、こちらでもご覧いただきたいと思っています。

展覧会に関しては近いものではこの2本となります。

それから、教育普及事業としまして、この多目的講義室のお披露目のワークショップを予定しております。当初6月という話もあったのですが、今のところ7月の次の所蔵作品展が始まるちょっと前に開催しようと計画しています。この部屋に水場もできたので、それを利用した実技のワークショップで、子供だけでなく、大人の方も楽しめるものになる予定です。

以上、報告と今後の予定です。

**【鉄矢会長】** ありがとうございます。事業報告をいただきました。報告と今後の予定になっています。ご質問とかご意見ありましたら、お願いいたします。

**【村澤委員】** 先ほどの佐藤慶次郎のものというのは、ほかの美術館と同じものが出てくるんですか、順繰りに。

**【荒木学芸員】** そうです。岐阜県美術館からお借りしたものを、巡回展という形で、

**【村澤委員】** 佐世保、安城とか。



【荒木学芸員】 3カ所で開催します。当館が一番スペースが狭いので、当館だけ縮小するかという話も最初はちょっと出たんですけども、結局、作品を選んでいったところ、全館同じものになりました。ただ、会場の雰囲気それぞれ全く違いますので、同じ作品でも全く雰囲気が変わった展示になることが予想されます。

【村澤委員】 先ほど見学した1階の部分と2階の展示室を使って、全部入るといった感じですか。

【荒木学芸員】 今まで運営協議会等をやっていたラウンジを展示に使います。2階の小さい展示室は、中村研一作品のエリアとします。

今回の展覧会の準備の会議で、作品を所蔵している岐阜県美術館の館長さんが、ラウンジについて、この部屋はすごくいいから、ここに作品を展示してほしいと、じきじきにリクエストをいただいたのでそのようにするつもりです。

【村澤委員】 ちなみに入場料ってどのくらいなのでしょう。

【荒木学芸員】 予定では、最近の企画展では大体500円か600円、ほかの2館につきましても500円だということなので、同じにしていこうと思います。

【村澤委員】 やるのかどうか、それはわからないですけども、例えば佐世保とかと比較したときに、あまり入館者数が少ないのはちょっとあれかなと思うんですけども、その辺の戦略というか、その辺の見込みというか。

【荒木学芸員】 うちの場合ですと、多摩美術大学で佐藤展を行ってからまだ1年たっていないというのがあるんですけども、ただ、多摩美大の展示を見損ねたという人がちらほらといらっしゃって、何だ、知っていたら見に行ったのにという声をちらほら聞きまして、そういうところに小金井でもありますよというふうに、あと多摩美術大学は大学美術館というイメージからか親子連れは少なかったそうです。先方のほうはサンリオピューロランドやよみうりランドの近くですので、クリスマスシーズンとかに子供にも来てほしかったと言っていました。逆に、こちらは秋の展覧会シーズンで、先ほど見ていただいたように、ポスターも明るいポップな感じに仕上がっているので、親しみやすさを前面に出して広報を進める予定です。

【村澤委員】 おもしろそうなので、ちょっと子供にもウケるかなという気はしないでもないんですけども、うまく広報しないと。

【荒木学芸員】 今回、助成金がついたことで初めて広告費がつかしました。これまでつかなかったのが、助成金が戻ってくるからということで、少額ですけども、つかしました。

これをどういうふうに割り振って、どういうふうに使おうかというのはこれから考えていきます。

【山村委員】　今回は音楽イベントとか、コンサートとか、佐藤慶次郎の曲をやるとか、そういうのはないんですか。

【荒木学芸員】　まず、DVDのBGMに佐藤慶次郎の曲を使うことにしました。あとは音楽のほうを強調しようとする、オブジェ作品をメインにしたいというところとのバランスがちょっと難しくなってくるころがあって、ただ、全く無視するわけにもいかなないので、音楽の試聴コーナーといったものはつくろうかという話になっています。

【鉄矢会長】　今回必要かどうかわからないですけども、学芸大にも音楽をやっている人はいますので、ホールもあるので、関連でどなたかがイベントをやってくれるとおもしろいなど。私もその一部にいるんですけど。ここでやらなくても、学芸大で当時の武満徹も含めてどういう動きがあったかという話をする、解説をしてくれる企画があると、佐藤作品の位置がよくわかったり。

【荒木学芸員】　ちょうど実験工房展が今全国を回っています。少し前まで神奈川であって、年度末に世田谷へ戻ってきます。この展覧会とほぼ同じスタートで、初台にある東京オペラシティアートギャラリーで日本近代の作曲家という展覧会が開催されて、そこでも佐藤慶次郎の楽譜と作品が展示されるそうなので、うまく広報連携ができればと考えています。

【山村委員】　単なるオブジェだけじゃなくて、そういう背景があるとかわかると、深みが出ていいかなと思うんです。

【鉄矢会長】　この辺だと、本当はもう締め切っていますけれども、9月に科学の祭典が学芸大であって、その科学の祭典のところ芸術を科学するというブースみたいなので、佐藤展の事前みたいなのをちょっとプレでビデオを見せたりちょっとやっているだけでもすごい広報になる。

【荒木学芸員】　佐世保の展示が始まって、カタログはできているので、DVDは流せませぬ。

【鉄矢会長】　毎年8,000人ぐらい来て、子供もいっぱい来ますから、そのときに佐藤慶次郎とか、名前をインプットするというのはすごく大事だと思うんですね。

【平岡委員】　そうですね。科学の祭典は私も伺ったことはないんですけども、雰囲気としては、どちらかというに近い部分もあるので、何かそういうことができるといいです

ね。

【鉄矢会長】 その他ありませんか。

【山村委員】 前回のときにこごうち文庫という、子供向けの絵本とかを寄贈云々という話があったんですが、その後の経過を教えてください。

【事務局（吉川）】 その後の経過なんですけど、あのときは文庫の活動そのものを絵本と一緒にここに持ってきたらどうかという話でしたが、それは美術館の活動にそぐわないんじゃないかというご意見もいただいて、その後寄付は寄付、活動は活動ということで、物と活動を分けましょうという整理をしました。活動についてはその団体と美術館とよく話し合いをしてやったらどうかということ、薩摩先生を含め美術館のスタッフと話をしました。本をいただくことに関しては、ここの美術館のワークショップの質の向上ができるということなので、いただくことについては構わないんじゃないかということで、寄付願いまで出していたいたんですが、事務方のほうで反対意見があり、今、寄付願いがとまってしまっているんです。

とりあえず絵本を使って教育普及活動ができるような美術館にしたいという希望はあるんですけども、活動と物の関係を運営協議会では反対されていたのではないかとということもあって寄付に反対の意見がありまして、今、この話はもしかしたら先に進まないのではという懸念があります。子供の本1,000冊というものは市では買えませんので、できれば寄付していただきたいと思っているんですけども、現状は、挫折の方向に向かっているかなというところでとまっております。

【山村委員】 わかりました。

【鉄矢会長】 ほかにはありませんか。

【河合委員】 では、幾つか感想を言わせていただきます。

まず1つ目は、前回来たときにこの部屋をつくるに当たって、先ほど説明もありましたが、備品が入るとか入らないとか、いろいろなお話を伺いながら今日見て、私は本当にすごい部屋ができたなという感想を持っています。大変いい部屋で、この部屋だったら、1回使った人がまた使ってみたいなって思うんだろうなと思いました。使わないとわからないと思うんですけども、その最初のきっかけづくりが必要かななんて思いました。いい部屋ですね。

【荒木学芸員】 鑑賞教室で4年生が来たときも、例えば雨の日でも、雨の玄関先でぬれそうになりながらお話を聞くんじゃなくて、ここで落ち着いて、説明をしてから見学で

きたりとか、荷物を置いたりとか、そういうちょっとほっとする場をつくれるといいかもしれないです。

**【河合委員】** たしか静かに自分のことをやるとか、前回そんな話がありましたけれども、何か考えてやってみるには本当にいい部屋だなと思いました。

2つ目として、展示会のこれは事業報告の中で見させていただいて、一番下に無料観覧日というのがあって、180人ぐらい人が来るというので、やっぱり皆さん興味があるんですね。こういう日にはぱっと見て来るということは、この展覧会についてはそういうチラシ等を見て狙ってということで、広報活動が必要なのかななんてすごく感じました。

それから、今後の予定のところではうれしかったんですが、展示会のところでまた小中学生を無料にさせていただくということで、よろしければ市内の小中学生に校長会を通してまた紹介をさせていただけたらと思っています。

それから、前後いって申しわけないんですが、ちょっと先ほどお話に出ていた企画展、おもしろいですね。先ほど鉄矢先生から科学の祭典ということで、今、小中学生にとって、特に小学生あたりに科学という理科教育なんです、学校教育では非常に力を入れていて、東京都もそのために幾つか拠点校をつくって取り組んでいるんです。近くで言うと、その南小が理数教育のプロジェクトを今年から取り入れたりして、そういう教育をしようとしているところなんです。私は先ほどビデオを見て、あれは電気の磁気だとか、そういうもので動くんですね。

**【荒木学芸員】** 電気と磁気とその振動です。

**【河合委員】** そうですよ。これも無料になればいいななんてちょっと思ったりして、そうすると子供がたくさん見に来て、日本の将来を支えるためにはこういう科学みたいなものに興味を持てたらいいと思うし、それをこういう作品につなげていく。学芸大でたくさんそういうものつながりはあるんだと思いますが、前後して申しわけないんですが、科学の祭典ではそういうところも出ていたりして、市内の子供たちの科学でつくったものを展示したり、そして市内の中学生があそこのボランティアで入らせていただいて、学芸大と一緒にやらせていただく。ですから、先ほど話が出ていたように、そこでの紹介というのはすごくインパクトがあるから、特に市内の子供がたくさん見に行っていますから、さっきのビデオなんかをどこかで流してみれば、見に来たくなるんじゃないでしょうか。きょうは大変おもしろいなと思って見させていただきました。ありがとうございました。

【鉄矢会長】 地味ながら私も大学生に動くオブジェをつくれという課題を出して、その中のサンプルとして伊藤隆道だとか、カルダーという中に佐藤慶次郎を潜り込ませてあって、佐藤慶次郎ってだれですかっていう学生がいて、調べていて展示が多摩美術大学美術館であったんですよねと言って、そこ以上は入れてないんですけども、何人か学生が興味を持ってやっていたりするのを見ながら、作戦としてそうやっていくということを考えると、夏休みの自由工作に電気を使ったものを小金井市はけの森美術館賞を1点ぐらい出しますよなんて言って、そっちのほうに振っておくとみんなが興味を持って、興味を持った子供たちが佐藤慶次郎を見たら、すごい感動すると思います。

だから、そこの仕掛けがあると素直に見に行きたいという格好になるんだろうと。特にこれは夏休みの後ですから、夏休みの自由工作みたいなので、市民団体も夏休み工作を手伝ってくれているところはいっぱいあると思うんです。ここは発明協会もあるんですか。

【平岡委員】 発明協会はないですね。

【鉄矢会長】 発明会子供クラブ。東京都か。東京都は発明クラブかな。いろいろなものが絡み合って、単に磁気を使った工作みたいなのを一度でも体験した子供は、これを見て磁気だと言ったら、見に行こうという気になるんじゃないかな。

【河合委員】 興味がわきますよね。

【鉄矢会長】 一般的なものよりもちょっと違う筋でできるかもしれないね。

ほかにございますか。

では、ないようでしたら、最後の多目的講義室等の現状視察をして、そのまま解散でよろしいんですか。

平成25年第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会の審議はここで終わらして、現状視察に入って解散にしたいと思います。

今日はありがとうございました。皆さんよろしくどうぞ。

— 了 —